

パブリッククラウドにエンタープライズグレードの性能をもたらし、セカンダリデータに対応する

IDC社の報告によると、パブリッククラウドは引き続き拡大し、今後5年間で2桁の成長が見込まれています¹。セカンダリデータワークロードのためのハイブリッドクラウド戦略を立てるには、パブリッククラウドとオンプレミスソリューションの相互運用を視野に入れる必要があります。しかし、レガシーソリューションは設計時にクラウドが考慮されていないためクラウドゲートウェイの使用を必要とし、クラウド内でも十分に拡張できません。

Cohesityのメリットのご紹介

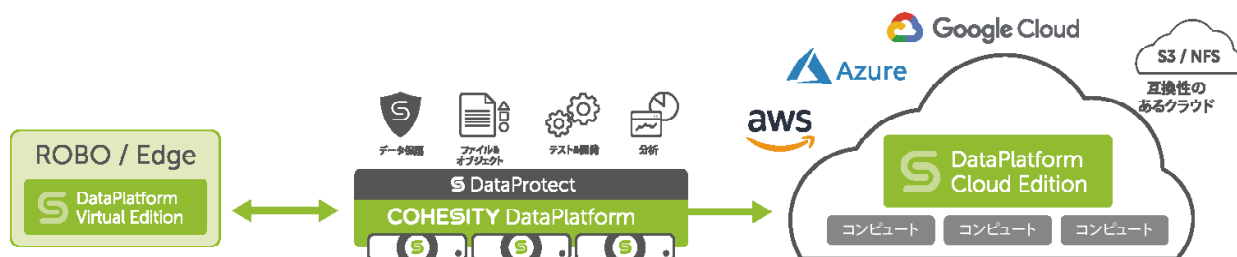
Cohesity DataPlatformは、クラウドファーストを念頭に置いて設計された、セカンダリデータとセカンダリアプリケーション向けの最新のアーキテクチャーです。パブリッククラウドとのネイティブ統合により、その拡張性と費用対効果をさまざまなユースケースに活かすことができる一方で、セカンダリデータを常に管理できます。

CohesityをAmazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud Platform、およびCohesity Poweredサービスプロバイダーのクラウドと統合し、そうしたパブリッククラウドのサービスにオンプレミスのデータ保護ソリューションを拡張できます。Cohesity DataPlatform Cloud Editionなら、パブリッククラウドでCohesityクラスターを展開し、データセンターからパブリッククラウドへのレプリケーションを行うことが可能です。

「Cohesityを導入してセカンダリストレージインフラストラクチャの統合と簡素化を進めることに明確な価値を見出しました。Cohesityを活用すれば、パブリッククラウドとのシンプルな統合により長期のアーカイブが可能になるとともに、データ保護機能とファイルストレージを統合できます」

MANHATTAN ASSOCIATES社

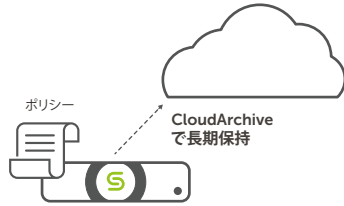
主席エンジニア
Brian Sweeney氏



¹IDC社、『Worldwide Semiannual Public Cloud Services Spending Guide』

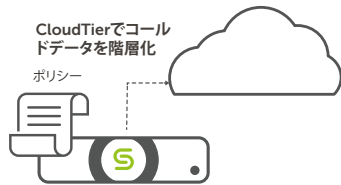
ユースケース

Cohesityに組み込まれたクラウドの機能により、さまざまなユースケースでクラウドを柔軟に活用できます。



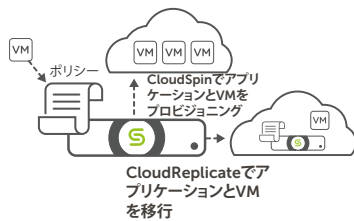
長期保持

クラウドへのデータのアーカイブ - オンプレミスの古いスナップショットをポリシーに基づいてクラウドにアーカイブし、長期的に保持できます。これにより、テープの利用が減り、TCOを削減できます。また、クラウドから簡単にデータを取り込んでオンプレミスに戻したり、別のサイトにデータをリカバリしたりすることが可能になります。CloudArchive™は、Cohesityクラスターの古いローカルスナップショットをパブリッククラウドにアーカイブして長期間保持できる機能です。また、CloudArchiveの重複排除により、クラウドに保存しているデータを最適化できます。



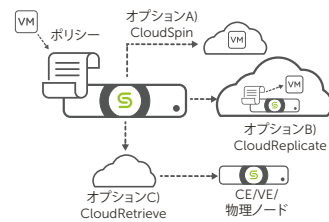
ストレージ階層化

クラウドへのコールドデータの移動 - ポリシーベースのしきい値を使用して、コールドデータをパブリッククラウドに移動できます。クラウドストレージを別の階層として活用するとともに、データを階層化してオンプレミスのクラスターに戻すことが可能です。CloudTier™は、クラウドをCohesityの組み込みストレージへの拡張として使用し、Cohesityクラスターとクラウド間のデータを階層化できます。



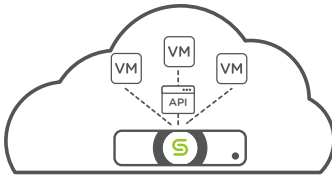
テスト/開発

新しいアプリケーションのプロビジョニング、またはクラウドへのオンプレミスのアプリケーションの移動 - バックアップに保険として確保するデータ以上の価値を見出し、Cohesityを導入していてもいなくても、クラウドで新しいVMを起動できます。CloudSpinは、テスト/開発用のパブリッククラウドでオンプレミスのVMを起動できるCohesityのクラウド機能です。また、ポリシーを設定して、バックアップの変換とクラウドへの保存をスケジュールできます。この場合、Cohesityがクラウドで実行されている必要はありません。要求次第で、クラウドのVMがアクティブ化されます。



ディザスタリカバリ

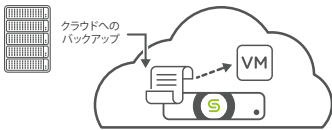
クラウドによるコスト効率の高いディザスタリカバリ (DR) の実現 - オンプレミスからパブリッククラウドへのレプリケーションにより、コスト効率の高いディザスタリカバリが可能になります。自動フォーマット変換機能を使用してVMのクラウドインスタンスを起動し、ディザスタリカバリを行えます。CloudReplicate™では、オンプレミスのCohesityクラスターからクラウドのCohesityインスタンスにデータを複製できます。CloudRetrieveを使用すれば、特定のクラスターから外部ターゲットにデータをアーカイブすることが可能です。また、同じ外部ターゲットに別のクラスターを登録して、そのクラスターから代替のクラスターにデータを抽出できます。



新機能 クラウドネイティブバックアップ

クラウドアプリケーションのバックアップの自動化 - APIを統合してクラウドアプリケーションを保護できます。パブリッククラウドのスナップショットAPIとの統合を活用することにより、クラス最高レベルの効率を実現します。パブリッククラウドのスナップショットAPIと統合し、クラウドアプリケーションのネイティブバックアップを取得できるよう、CohesityプラットフォームはネイティブAPI統合機能を搭載しています。

オンプレミスのデータセンター



クラウドへの直接バックアップ

クラウドへの直接バックアップ - オンプレミスのアプリケーションから取得したバックアップデータをクラウドに直接送信できます。バックアップソフトウェアとオンプレミスのターゲットストレージは不要です。

クラウドに関する主な差別化要因

Cohesityは、単一のクラウドネイティブソリューションでバックアップ/リカバリ、ファイルとオブジェクト、テスト/開発と分析などのすべてのセカンダリワークロードを統合します。

- **Webスケール:** ソフトウェア デファインド、およびWebスケールのプラットフォームにより、制限のない拡張、中断を伴わないアップグレード、成長に応じて料金を支払う消費モデルを実現できます。
- **グローバル重複排除:** クラウドにおけるグローバル重複排除が可能なソリューションにより、スペース効率を最大化できます。重複排除には、可変長、インライン、ポストプロセスを設定可能です。
- **制限のないスナップショットおよびクローン:** Cohesity SnapTreeを活用して、スナップショットおよびクローンを数に制限なく作成できます。パフォーマンスへの影響はありません。各スナップショットは、完全にハイドレーションされた、ファイルのコピーとして、すぐに利用できます。
- **自動化されたグローバルインデックス:** 自動化されたグローバルインデックスにより、Googleのような検索機能を実現でき、VM、ファイル、または取り込んだオブジェクトに対して、ワイルドカード検索を瞬時に行えます。また、きめ細かいリカバリが、クラウドからのデータ取得を最適化します。
- **セキュリティ:** Cohesityでは、保存データと移動中のデータを暗号化できます。ロールベースのアクセス制御を実現し、業務分担を考慮した役割にActive Directoryまたはローカルユーザーをマッピングできます。
- **サービス品質:** このソリューションを活用すれば、きめ細かいレベルでサービス品質を管理し、ミッションクリティカルなワークロードにおいて低レイテンシと高スループットを実現できます。

Cohesity DataPlatformなら、パブリッククラウドサービスにシンプルに接続して、データセンターインフラストラクチャを拡張し、長期保持、階層化、ディザスタリカバリ、テスト/開発、レプリケーションなどを行えます。Cohesityの活用により、セカンダリデータのためのハイブリッドクラウド戦略を実現できます。

詳細については、www.cohesity.com (英語) をご覧ください。